

百人町教会週報

主日礼拝

司会 空閑厚樹
証詞 金井美彦
奏楽 北村恵子
受付 千葉道代

前奏 Prelude

讃美 Hymn 11 (感謝にみちて)

聖書 Scripture マルコによる福音書 3 章 7-12、20-30 節 (新約 65 頁)

祈祷 Prayer

主の祈り A Lord's Prayer A 93-5A

献金 Offering

献金の祈り Offering Prayer

報告 Report

証詞 Testimony 「群がる民衆、悪霊の頭との疑い」

祈祷 Prayer

讃美 Hymn 344 (聖霊の神、きよき愛よ)

食前の祈り Prayer before meals

共食 Commensal

応答 Response

祈祷 Prayer

後奏 Postlude

* 讃美歌の時は座ったままでも結構です。

今年の聖句

「あなたに言うことは、すべての人に言うのだ。目を覚ましていなさい。」
マルコ十三の三七

今週の聖句

エルサレムから下つて来た律法学者たちも、「あの男はベルゼブルに取りつかれている」と言い、また、「悪霊の頭の力で悪霊を追い出している」と言っていた。(マルコ 3 の 21)

(Zoom ID 「607 777 8018」 PW 「roba1970」 担当 石田・空閑・坂・阿蘇)

‡ 今週の集会

- ・ 7 月世話人会 礼拝後 13 時貸会議室
- ・ 7 月 14 日『ろば』を読む会 15 時 15 分 Zoom 185 号 担当榎本
- ・ 7 月 15 日聖書研究会 19 時 30 分 Zoom エフェソ書 4 章 担当池田

‡ 次週の集会

- ・ 主日礼拝 7 月 19 日(日)午前 10 時 30 分
証詞 金井美彦 題「私たちは蒔かれた種であった」
聖書 マルコによる福音書 4 章 1-20 節 讃美歌 12, 195
司会 佐藤かよ子 奏楽 前中榮子 受付 新谷照子
- ・ 礼拝後

‡ 消息と案内

‡ 特別献金

- ・ 就任式お祝い献金 荒井愛子、荒井真、砧教会、下石神井教会
浄風教会、富坂キリスト教センター、西片町教会、早稲田教会
- ・ 齋藤留美子 (感謝) 小池恵子 (就任式感謝) 新谷照子 (誕生日感謝)
- ・ フィリピン震災アガリン支援基金累計 78,800 円 (2 回目分 31,500 円を 9 日送金済)。

‡ 先週の集会報告

	対面(子供)	Zoom	計	席上献金
主日礼拝	7/5	14 (2)	6	20

12,700 円

◇牧師日誌 No. 9◇

★日本の政治はこの先どうなるのだろう。皇室典範の改正に躍起となって、憲法違反の男女差別を温存どころか強化し、皇室ではない外野の利益になるようにしつらえる。そしてあたかも「神国」であるかのような明治体制に戻したいという、アナクロニズムに陥った。危機感をあおり、国家を強くしたいのだが、簡単ではない。結局利用するのは天皇制。人権の外にある天皇とは要するに「神」ということ。実は現憲法は明治憲法の改正条項によって改正されもので、新憲法ではない。だから1条は天皇のまま。ただ、その地位が国民の総意に戻つくとされたから、国家を超越してはいない。それでも、その総意が確かめられたわけでもない。要するに既成事実、つまり京都から江戸に連れてこられた16歳の明治天皇を江戸城に据えて、徳川を超える力として民に知らせた時から間もなく神王として認知され、教育制度によって誰もが洗脳され、「そういうものだ」となって、今に至る。今般の改正で室町期に分家した世襲親王家が新たな天皇家になる道筋が見えた。しかし、そちらは北朝の流れだと記憶するが、だとするとそれは正統ではない。ただそんなことより、男系に固執しながら、かつ側室を置かなければ、結局男系は先細るのは間違いない（詳しくは『世界』8月号の上野千鶴子さんの論考参照）。それにしても、蚊帳の外に置かれた皇室の、特に女性の皆さんは何を思うのか。象徴という名の役を演じるのは、辛そうではある。

★7月8日妻の叔母が逝去。ホームに入居していたが、そちらで転倒し、大腿骨を骨折、手術し退院したが、残念ながら、回復ならずであった。多難な生涯だったように思う。遠く離れて住む息子、娘にかわって、妻が毎月ホームに見舞っていた。私もたいていお供した。今日は葬儀の打ち合わせで妻も立ち会うため、お休み。

★10日、久しぶりで大学の部活の仲間と会った。昭和レトロの町となった赤羽で。流行りの店にはいかず、午後3時から飲む。文学と思想の部活だった。ひとしきり、昔を思い、やり残したことが多すぎることに気が付く。

<会員日誌>

2026年7月12日

齋藤留美子

この2月末、夫に胆管癌が見つかり、私の人生最大の危機的状況におちいってしまいました。手術をしようにも、その可能性を探るべく転移がないかどうかということで、検査が必要になり、3月4月と短期入院したりしていました。

夫がいない状況では、農園の維持も困難であり、畑を欲しいという人がいましたので、一か所手ばなしました。自分の車のない日常生活では支障があり、軽自動車を買ひ、畑、買い物、温泉にでかけました。

夫は「病気は病院で直す。留美子は畑と家を守る」と強気の発言をしていましたが、私にとっては、夫こそが大切であるという思いがありました。

5月1日の手術の日、8時半に手術室に入った夫を見送り、私はデイルームでまつ子と13時間、その間色々な事態を想定しながら一人で対応しなければならぬのだと心を強くし、無事であることをひたすら祈る時間でもありました。

あれから二月が過ぎ、無事手術を終え、自宅療養している夫はとても元気になりました。そのため私も元気づけられ、危機的状況を脱することが出来ました。

今は夫と二人、猫を加えた充実した生活を送ることができ、神様に感謝したい